

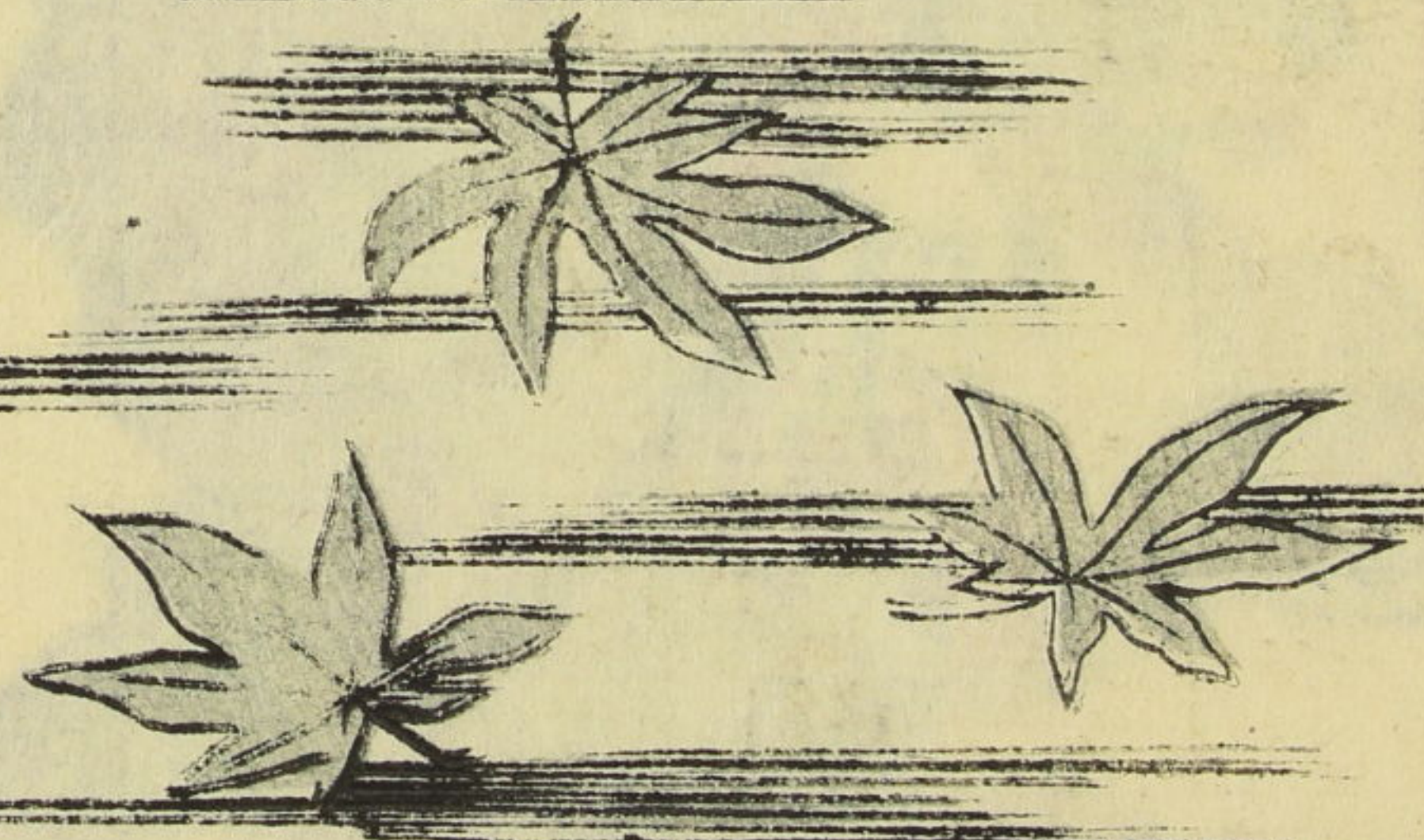
~ 13
3706
35



阿 へ 13
3706
35

為 於 辰 孟 春
女 傳 保 昌 志
り 記

うまのあまの
うまのあまの
うまのあまの



鬼も十八山茶も出花と世の俚語も言ふあまの草双紙

又是の齋く十月をかりも作者の腹の中を種を産出せ

初編の更小林子ゆく二編と育ち三編と音恵づれ十六

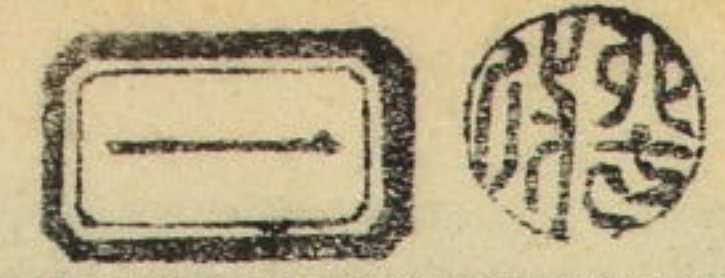
十七編の到と自と脚色も花香もあまの味も出る

本傳既よ今稔いそや所謂鬼も十八編の盛り

場よ及べし素より山茶の煮古をも煎火で返せ一條ある由

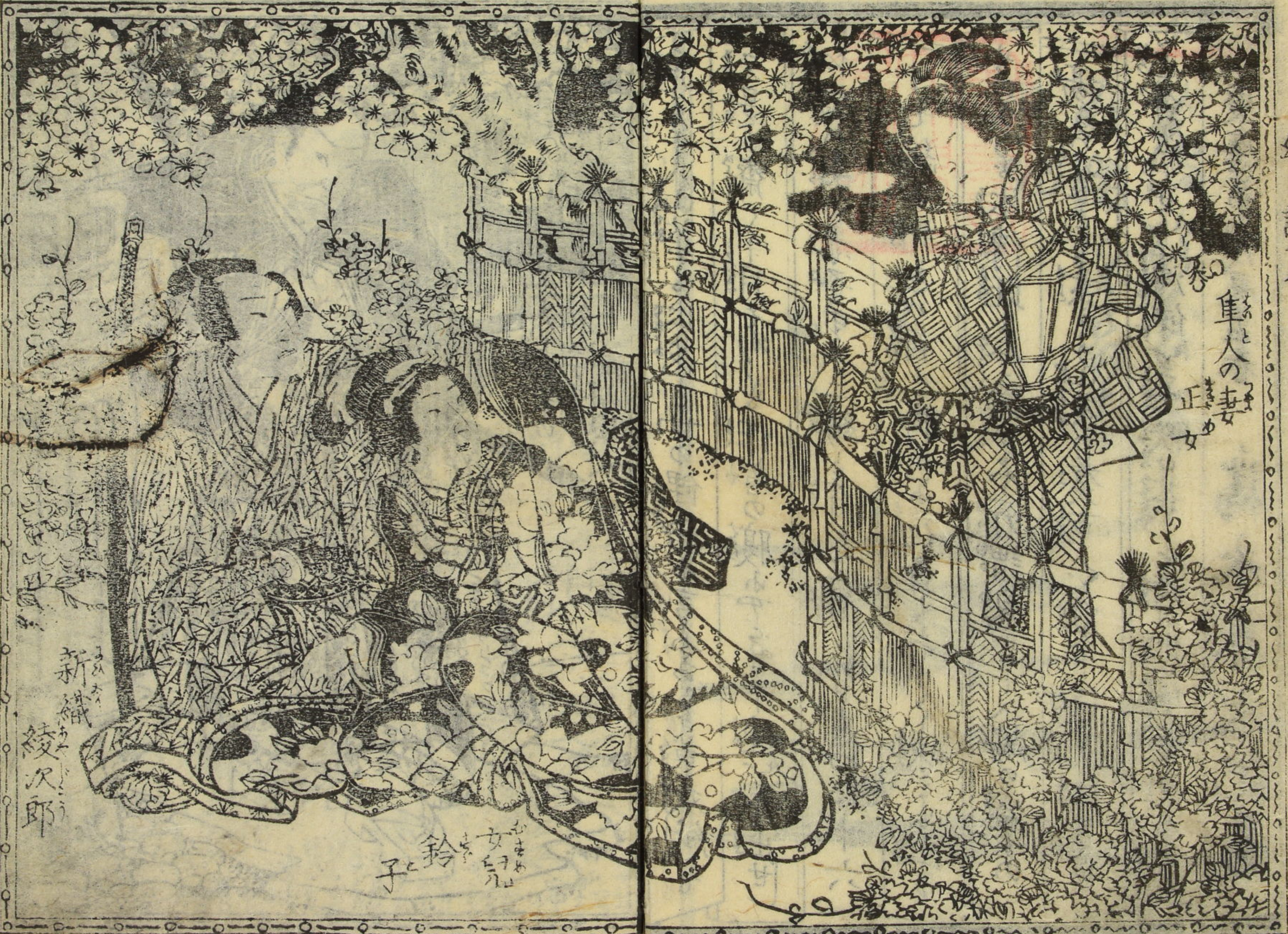
色香も失せ薄倂も又一帙口茶と時の出花とほる夏あうり

慶應第四戊辰孟春 為永春水記





37



女
日
言

車
人
の
妻
正
女

新
綾
次
郎

鈴
子
女

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or a collection of letters. The text is arranged in columns, with some lines written vertically and others horizontally. The script is dense and fills most of the page area.

7 p 01







春水作國貞画

柳蔭月朝妻

出 六編追板

山々亭有人作
梅朝樓國貞画

藪黄鵠八幡不知

出 五編追板

山々亭有人作
錦朝樓芳席画

阿玉ヶ池櫛月形

初編ヨリ追々出板

山々亭有人作
一陽齋豊国画

地本綿繪團扇問屋

紅英堂 葛吉

實母散

さんぜんさんご
ふとんちのみち
一切のめ茶

中橋南傳馬町東側
千葉堂孝輔製

